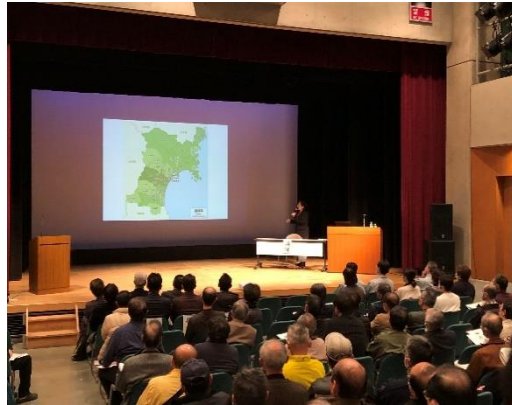


開催地名	富山県射水市
開催日時	令和6年2月18日（日） 13:30 ～ 15:00
開催場所	アイザック小杉文化ホール ラポール
語り部	菅野 澄枝 （宮城県仙台市）
参加者	市議会職員、自主防災組織、消防団、防災士、射水市民 160名
開催経緯	本市が見舞われる自然災害は、近年増加傾向にある。一方で、本市における住民の防災意識は決して高いとは言えない現状である。そのため、本プロジェクトを通じて、東日本大震災当時の状況や現在もなお、防災活動の第一線で活躍される方を講師としてお招きし、自助・共助の重要性について学び、今後の災害対応に活かして参りたい。
内容	誰がやるの？～大切な命を守るために～ （1）SBLとは 実際、東日本大震災が起こるまでは、世間的には『防災はお父さんの役目。男性の役目。』という風潮があったのは事実だった。当時PTA会長をしていた私は発災時、校長先生から避難所運営や危機管理をしてくれ。と頼まれたのであるが、当時私はあまりにも何もできず、その不甲斐無さの経緯を経て、地域、家庭で協力し助け合う自主防災活動を推進するための、仙台市地域防災リーダー（SBL）となった。 SBLとは、2日間の研修を受け認定された人は、発災時の応急活動の指揮、および避難所運営をしなければならない。また地域に密着した防災計画書の作成も担う。現在 774名の内、なんと 189名もの女性が仙台 SBL という次第である。 （2）岩切地区の SBL 岩切には、NPO 法人イコールネット仙台、という男女共同参画の組織があるため、比較的女性のリーダーが多い。女性が多いことにより仲間意識が高く、ネットワークも広がりやすく様々な活動ができている。防災、減災は自分のためにやるものだ、ということを講座で話し、人材を育成し、さらには避難所での簡易トイレや段ボールベッドの設置などができる技術を身につけてもらっている。岩切住民一人一人が、防災エキスパートとなるような取り組みを行っている。 （3）震災からの私たち 防災、減災を守るだけでは大切な人は守れない。ここは自分たちのまちだから、自助・共助が大切である。そして近所。無理なく楽しく息長く地域を守るために、地域のお母

さんから女性防災リーダーへ。そして仙台市地域防災リーダーへと進めていき、何かあったら時には、すぐに頼れる、集まれる、岩切特別ルールを作っている。

例えば、震度5の震災時には、誰かが集会所に待機する。また大雨警報が出た際は、誰か集会所にいるようにするなど、様々な事態に備えてまちぐるみで防災、減災に努めている。



開催地より

今回の講演会では、自助と共助の重要性とそのための顔の見えるコミュニティづくりについてお話しをいただいた。また、女性視点ならではの取り組みから、不安感の少ない避難所運営について学び、誰もが安心して避難生活ができる環境づくりについて改めて考えるきっかけとなった。発災時は、誰もが被災者である。だからこそ、住民の方には【ここは「わたしのまち」だから】を原動力に自助と共助の取り組みについてご理解いただき、実践いただけるよう、出前講座等を通じて積極的に普及して参りたい。